

学校と地域と一緒に学ぶ 人権研修会を開催しました!



●人権推進課 ☎84-1228

8月21日(木)、中央公民館大集会室で、町人権教育推進委員会の学校教育部、保育所、小・中学校の人権教育担当者、社会教育部による合同研修会を開催し、約40名が参加しました。今年度のテーマは「部落差別(同和問題)」です。研修会では、保育所や小・中学校での取り組み発表のほか、昨年発生した差別事象を教材に「差別のない安心して暮らせるまちづくりのために、私たちにできること」をテーマにグループで意見交換を行いました。

◆小・中学校での取り組み◆

小・中学校では、全学年を通した仲間づくりに取り組んでいます。学級会などで意見を伝え、友だちの考えを聴く活動を通して、他者との関係作りや自己肯定感を育てています。上級生と下級生の交流や地域の高齢者・保育園児との活動も行い、相手の立場を考える思いやりの心を育成しています。また、歴史学習の中で部落差別を含むさまざまな差別の事例に触れることで、人権意識の向上につなげています。



◆保育所での取り組み◆

保育所では、毎年人権作文集「つながる心」に園児のつづやきをまとめて掲載しています。園児たちは園での生活や友だちとの関わりの中で、気持ちや思いを表情や言葉、しぐさで表現しています。職員はその背景を理解するために研修を行い、年齢に応じた方法で子どもたちの人権感覚を育てています。年長組では話し合いを通して考えを深め、小さいクラスでは絵本や紙芝居で学び、乳幼児期から「自分も友だちも大切にす



◆差別事象を通して考える◆

今回の研修会では、昨年9月に発生した差別事象を教材に真剣な話し合いを行いました。

【差別事象について】

昨年9月18日(水)、八頭町議会事務局に無記名の手紙が届き、職員が開封したところ、そこには「町の防災マップの中に同和地区に色分けをし、分かるようにしてほしい」等と書かれていました。

この手紙には、被差別部落に対する強い忌避意識が示されており、結婚差別や土地差別にあたる内容も含まれていました。差別を自覚しながらも自己の主張を正当化して要望している点も問題であり、こうした投書は部落差別問題の解決を妨げる悪質で許しがたい行為です。また差出人を特定できないようにしていることから、こうした行動に至った意識の背後にあるものが確認できない事案です。

【町の取り組み】

この事象を深く受けとめ、町では職員研修や差別事象対応マニュアルの見直し、条例改正などの対策を講じ、議会でも基本的人権を尊重したまちづくりに取り組む決議を行いました。

◆人権問題学習会に参加しましょう◆

今回開催した研修のように、学習会や研修会を通じて対話を学校や地域で重ねていくことが、差別の解消と安心して暮らせるまちづくりにつながります。

そこで今年度は、この差別事象を教材として各集落で人権問題学習会を開催します。

差別の現実から深く学び、互いの思いを共有し合うことから、一歩ずつ前へ進むことができます。ぜひお誘い合わせのうえ、学習会にご参加ください。